

気軽に！
楽しく！

「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムをつくり出す **コツ**

POINT 01 知ることからはじめよう！

障害の状態や必要な支援は、一人一人違います。本人、保護者、支援者と一緒に活動すると、バリアを取り除くことにつながります。話し合う場をつくることもオススメです。



例) スポーツ教室
仙北市中央公民館と大曲支援学校
せんばく校が連携、協働し実施。

POINT 02 できることからしてみよう！

いきなりは難しいことも・

- ・地域のニーズを把握して講座企画
- ・当事者に適切に支援できる体制整備



できることから少しずつ！

- ・今ある講座を少し工夫
- ・広報への掲載を工夫
例「必要な支援についてはご相談ください」
- ・特別支援学校等と連携・協働する。



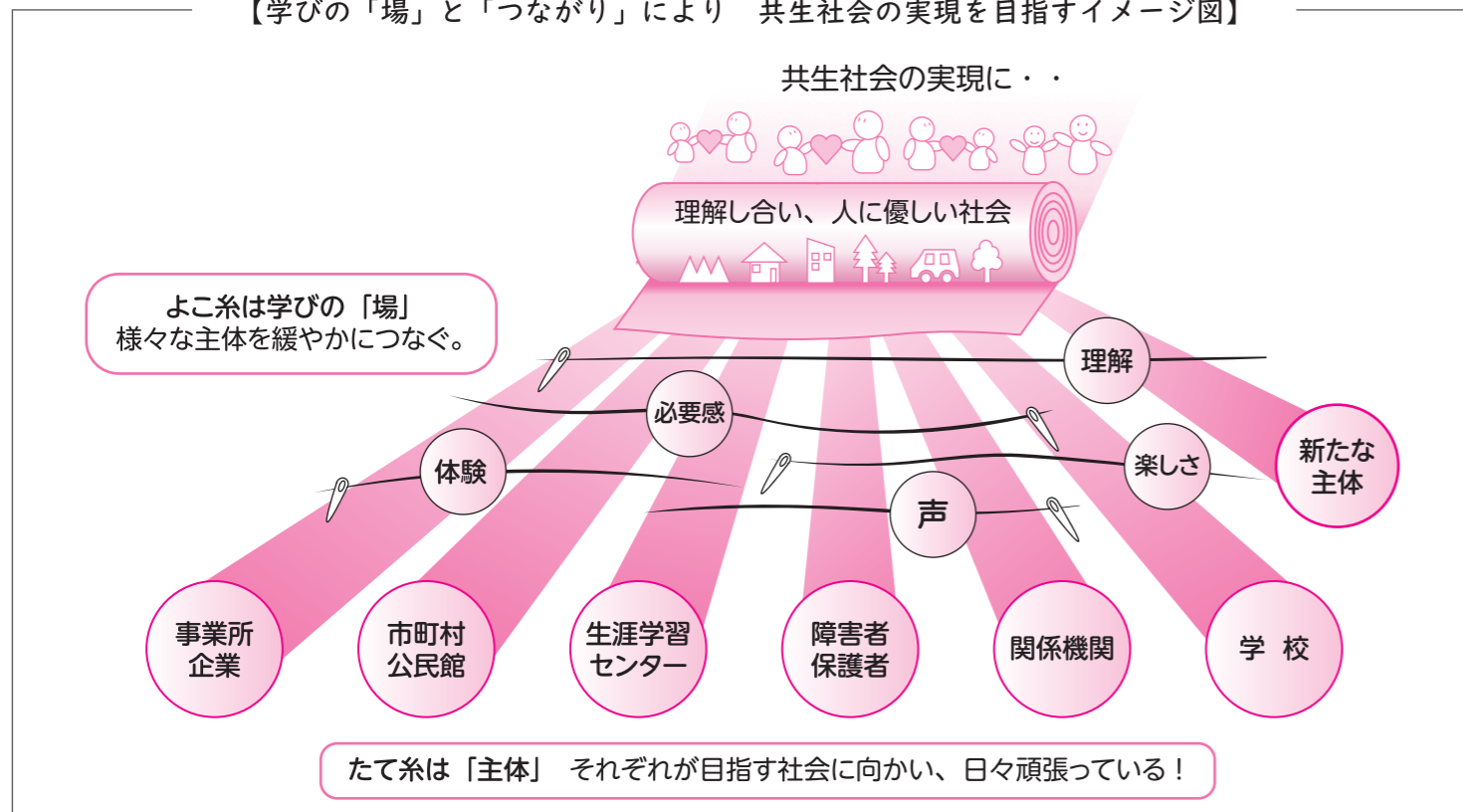
例) あきたスマートカレッジ
防災は、誰の身にも起こりうるこ
から、必要感が高い学びです。

POINT 03 楽しい体験をしよう！

楽しい体験を伴う学びは、高い学習効果が期待できます。
また、防災のように「今なぜそれを学ぶのか」という必要感が
分かりやすい学びは、持続可能性も高まります。

「声」を大切に「場」を作ることで「つながり」が生まれます

【学びの「場」と「つながり」により 共生社会の実現を目指すイメージ図】



「地域で学びの場をつくりたい」
「こんな活動してみたい」
そんな時はぜひ 秋田県生涯学習センターへ！

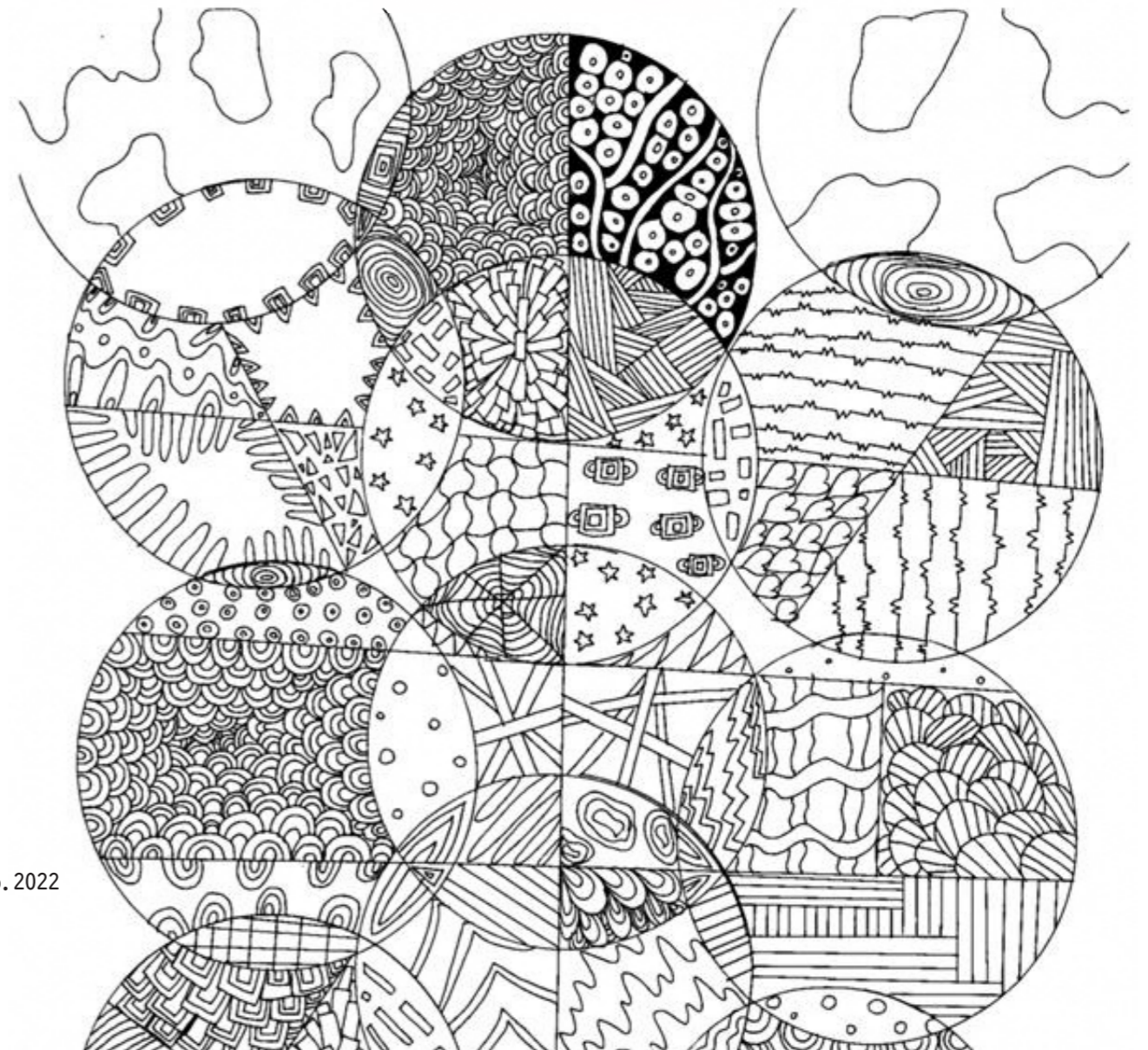
秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田市山王中島町1番1号
TEL 018-865-1171 FAX 018-824-1799
E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>



秋田県生涯学習センター
令和4年度調査研究事業

秋田県教育委員会

障害のあるなしにかかわらず
一緒に学べる場
つくって見た



©kono. 2022

「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムをつくることに挑戦しました

学びの場づくりの
きっかけやヒントに
なれば嬉しい！

やってみて
見えてきた！

秋田県生涯学習センターでは、「障害者の生涯学習」を現代的課題の一つと
とらえ、その推進のため、学習プログラムの創出に取り組みました。
その際、次の視点を基に実践する過程で、大切なことが見えてきました。

視 点	01 共に学ぶ場 共生社会の実現に寄与する取組の一助とするための、障害の有無にかかわらず学びの場の設定	02 モデル講座 県内各地域で学びの場がつけられるための、基になるような講座の企画及び実施	03 連携・協働 取組の持続可能性を高めるための、様々な主体による目標共有の促進を図る効果や事例の発信
大切なこと	声	場	つながり
実 践	楽しい体験や思いを伝え合う機会をつくり…	当事者の声、必要感などから学びの場をつくっていくと…	様々なつながりが生まれ、可能性の広がりを感じました！

実際の取組は
こんな流れだった！

秋田県生涯学習センターの取組：抜粋（実践例は次のページにあります）

県内では、障害のある方の学びの機会が不足・・・

そこで、講座をやってみました！

他にも新しい取組を
すすめてみた！

あきたスマートカレッジ
(障害者スポーツ)
体験+話し合い

講座参加者
「楽しかった!」「このような場があれば・・・」

この声を基に!

新たな学びの
ジャンル開拓
(防災講座)

イベントの
企画・実施

企業団体
市町村との
連携・協働

障害者
スポーツスペース
設置

すると
こんなことが
実現した!

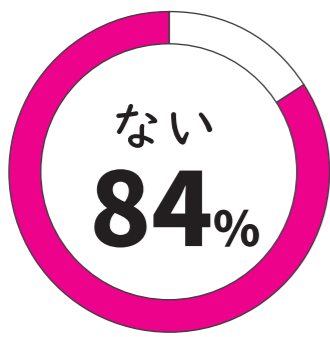
- ・市町村と連携・協働して講座運営
- ・小学生、中学生、高校生が障害者スポーツを体験
- ・特別支援学校で防災授業

さらに
様々な主体と
連携・協働!

- ・あきたWith※が設立される
- ・コートマット無償貸与(秋田県バドミントン協会)
- ・ボッチャボール寄贈(株式会社サンエスコミュニティ、秋田ノーザンハピネッツ株式会社)

※あきたWithは、秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した県内企業で設立した団体です。

仲間と学び合う場や学習プログラムが
身近にありますか？



詳しくは「調査研究報告書」(R2)を
ご覧ください

やってみた! 実践編

01 共に学ぶ場

声

実践1 様々な立場の人が思いを伝え合う「熟議」

秋田県生涯学習センター社会教育主事がファシリテートし、「私たちが考える楽しい学びの場」というテーマで意見交換する場をつくりました。

気軽に行けて、人と出会える場や、
かかわる場があればと思う。(保護者)

誰かの全てを受け入れることはできないけれど、
受け止めることはできると感じた。(大学生)



参加者が活発に意見交換しました

02 モデル講座

場

実践2 車いすユーザーの視点での「街歩きイベント」

ランチをしよう、車いすにとって危険なものの写真を撮ろう、
などのミッションにチームで取り組み、感想を伝え合うイベント
を行いました。

友達のような感覚で関わる事ができた。
SNSで気付いた事を発信したい。(企業参加者)



車いすで街を歩くと多くの発見があります

03 連携・協働

つながり

実践3 仙北市、企業と連携・協働した防災教室

仙北市中央公民館が主催し、障がい福祉サービス事業所「愛仙」
の利用者と、広報で呼びかけた一般の方を対象に防災教室を行
いました。講師は県生涯学習センター社会教育主事が務めました。
この防災教室で使用した米、アルミ飯盒などは「あきたWith」が
提供してくれました。

職員が来年の防災研修のアイデアを出し合っ
ていました。(福祉サービス事業所管理者)



仙北市中央公民館職員による趣旨説明

実践4 企業等と連携・協働したボッチャ交流会

「ボッチャ」での交流に取り組みました。特別支援学校児童
生徒、福祉事業所利用者、企業、秋田県ボッチャ協会、秋田市
身体障害者協会など様々な方が参加しました。また、高校生が
ボランティア活動をしました。

卒業してもこのような場があれば、
と思いました。(特別支援学校保護者)



声を掛け合う自然な交流が生まれました